

VIII 諏訪神社の棟札

長野県立歴史館（千曲市屋代260-6 科野の里歴史公園内）に残る手書きの資料『村社諏訪神社取調帳（製作年代不詳）』には諏訪神社の3枚の棟札が記録されています。その3枚とはそれぞれ、

- 嘉禎3年（1237年…鎌倉時代前期）
- 文明6年（1474年…室町時代後期）
- 享保9年（1724年…江戸時代中期）

に書かれたものとされています。ただ、これらも含め、棟札は行方不明となっていて、『諏訪形誌』執筆の段階では確認できませんでした。

しかし、2024（令和6）年の春、元諏訪形誌編集委員会副委員長・諏訪形誌活用委員会の委員で、この年の諏訪神社神社委員総代を務めていた窪田善雄さんが、諏訪神社本殿から10枚の棟札を発見しました。

1 嘉禎3年（1237年…鎌倉時代前期）と 文明6年（1474年…室町時代後期）の棟札

まず、嘉禎3年と文明6年に書かれたとされる2枚の棟札ですが、これらは後から作られたものである可能性が高い、と窪田さんは考えています。

嘉禎3年は鎌倉時代前期で、鎌倉幕府の将軍は第4代藤原頼経です。「鎌倉の大仏（高德院の本尊、国宝銅造阿弥陀如来坐像）」の建立が始まったのは嘉禎4年と考えられています。また、文明6年は応仁の乱（1467年）に始まる「戦国時代」の初期です。当時の室町幕府将軍は第8代将軍の足利義政で、文明14年には慈照寺観音殿（銀閣寺）の造営が始まっています。一休宗純（一休さん）が大徳寺の住持に就任したのはこの年（文明6年）です。



藤原 頼経



嘉禎三年 七月二十七日 村内安全



棟札

嘉禎参丁閏七月貳拾七日村内安全



天下泰平国土安全
奉再建諏訪大明神諸願成就所
五穀成就如意長久

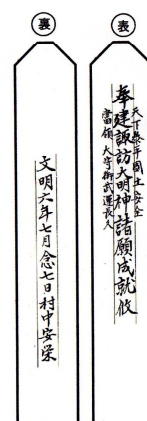


文明6年 七月 念七日 村中安栄



棟札

文明六年七月念七日村中安栄



天下泰平国土安全
奉建諏訪大明神諸願成就所
當領太守御武運長久

今回、諏訪神社で発見された嘉禎3年と文明5年の棟札を『村社諏訪神社取調帳』に記載入れているものと比較してみると、裏面の日付などは一致するものの、表面の記載についてはかなり簡略化されていることがわかります。このことから、今回見つかったものは、後述する享保9年に作製された棟札のレプリカと考えられますが、これらがいつ、どのような理由で作製されたのか、実際の所ところは不明です。

また、『村社諏訪神社取調帳』に掲載されているこの2枚の棟札には「村内安全」「村中安栄」など、抽象的な記述しかなく、具体的な内容が書かれていません。享保9年以降の棟札には「屋根の葺き替え」「祭典」など具体的な出来事が記載されていますが、この2枚にはそれがありません。また、以後の棟札には村や神社の関係者、作業に当たった人物の名前なども記載されているのに対し、この2枚にはそのようなものもありません。そこで推論として、この2枚は享保9年に社殿の改築を行った際、過去の伝承をもとに書いて加えたものではないか、ということが考えられます。

ただ、諏訪神社にとって嘉禎3年と文明6年の再建伝承は貴重なものです。それ故、これらの伝承に基づく何らかの祭礼が行われたときに棟札の代用品が必要だったのではないかと考えられます。

棟札は本来、天井裏の棟柱に貼り付けておくものですから、もしかしたら、享保9年のものも含めて『村社諏訪神社取調帳』に掲載されている3枚の棟札は、今も拝殿の天井裏に存在している可能性はおおいにあるものと思われます。

2 享保9年（1724年…江戸時代中期）の棟札

残念ながら今回、享保9年の棟札は見つかりませんでしたので、長野県立歴史館所蔵の『村社諏訪神社取調帳』から復元したものを載せます。

享保年間は江戸時代中期、徳川吉宗の「享保の改革」などで知られる時代で、江戸幕府政の権力が確立した時代です。

この享保9年の棟札には当時の神官や、庄屋など村のリーダーたち、実際の作業に当たった職人の名前なども具体的に記載されており、前の2点とはかなり大きさ差があることがわかります。

天下泰平國土安全 奉建立諏訪大明神諸願成就所 兼帶手塚孫右工門 同 柳沢五平次	大工中村甚四郎 棟梁小林庄三郎 大工箱山藤吉 同 中村長五郎	享保九甲辰拾貳月拾九日	大工中村甚四郎 棟梁小林庄三郎 大工箱山藤吉 同 中村長五郎	天下泰平國土安全 奉建立諏訪大明神諸願成就所 兼帶手塚孫右工門 同 柳沢五平次	庄屋宮下平次郎房政 社家倉沢伊太夫直常 同 高橋五右工門 同 柳沢五平次	組頭柳沢又兵衛 同 柳沢嘉右工門 同 柳沢五平次	總村中
--	---	--------------------	---	--	---	---	------------

表 奉建立諏訪大明神諸願成就所 嘉禎三年七月念七日村中安栄	裏 嘉禎三年七月念七日村中安栄	表 奉建立諏訪大明神諸願成就所 文明六年七月念七日村中安栄	裏 文明六年七月念七日村中安栄	表 奉建立諏訪大明神諸願成就所 享保九年七月念七日村中安栄	裏 享保九年七月念七日村中安栄
-------------------------------------	--------------------	-------------------------------------	--------------------	-------------------------------------	--------------------

上図：『村社諏訪神社取調帳』より（長野県立歴史館蔵）

3 文化9年（1812年…江戸時代後期）の棟札

文化9年の諏訪神社改築についてはこれまでまったく知られていませんでしたが、この棟札の発見によって一次史料で確認できたことは大きな成果です。今のところ、前述の「享保9年の棟札」の実物が見つかっていないので、この棟札は一次史料で諏訪神社の改築工事が確認できる最古のものとなります。

ただし、この棟札では世話人はすべて横林姓となっています。後の項でも触れているとおり、横林姓は須川地区に多くあるため、世話人全員が横林姓ということは、この棟札は諏訪形の諏訪神社のものではなく、須川の諏訪神社のものではないかと考えられます。

この棟札には「諏訪大明神中築」とあることから、諏訪神社の改築が行われたことがわかります。また当時、諏訪神社は「諏訪大明神」と呼ばれていたこともわかります。改築工事に関わった職人などの住所や人名なども具体的に記載されています。

棟梁常田村
狭原万蔵義知（花押）
踏入村 茅野文蔵
柳澤 坂口武右衛門
當村組頭 横林六兵衛
長白姓 同 入蔵

世話人 横林六右衛門
横林利左衛門
同 兼右衛門
同 利平
同 和右衛門
同 長吉
同 重五郎



○文化9年（1812年…江戸時代後期）

文化9年は江戸時代後期、徳川家斉が11代将軍だった時代です。町人文化が顕著に発展した時期で、後続する文政期とあわせ「化政文化」と呼ばれる時代です。また、日本史の話ではありませんが、1812年はナポレオンがロシア帝国との戦いで敗れた年です。

4 嘉永6年（1853年…江戸時代後期）の棟札

江戸時代も終わりに近づく嘉永6年の棟札です。この年はペリーが黒船4隻を率いて浦賀に来航したり、ロシアのプチャーチンが開国通商を求めて長崎に来港するなど、歴史が大きく動き始めたところです。

この棟札の表面は残念ながら何が書かれているのかを読み取ることができません。画像ではわかりにくいのですが、うっすらと残っている痕跡からは「正遷宮●神楽行事五穀●●●…」と読めます。「正遷宮」とは神社の改築が終了してご神体が神社に戻ることで、この年に諏訪神社で本殿の改築工事が行われたことがわかります。

また、裏面についても崩し字が良く読み取れません（読める方、教えてください）ただ、宮下理兵衛や荒井助次郎といった、諏訪形誌ではおなじみの名前が見られます。

嘉永八年
丑 七月二十七日
庄屋 宮下理兵衛
荒井助次郎



組頭細川
(この部分、全然読めない)

江戸時代も終わりに近い安政5年の棟札です。
福沢諭吉が慶應義塾の前身となる蘭学塾を創立し
たり、年末には大老井伊直弼による「安政の大獄」
が始まった年でもあります。

安政5年と言えば「飛越地震」の年です。この地震は現在の富山県と岐阜県境付近で起きたマグニチュード7を超える大きなものです。諏訪形に関わっての被害の記録は見つかりませんが、この地震による被害があったのかもしれませんが。

なお、「宮本陸奥頭藤原但次代」とありますが、これが何を指しているのかは不明です。上田藩主の官位は代々「伊賀守」でした。



江戸時代末期は地震活動が活発だった時代として知られています。安政年間と直前の嘉永年間後期には「伊賀上野地震(嘉永7年 1854年)」「安政南海地震(嘉永7年 1854年)」「安政東海地震(嘉永7年 1854年)」「伊賀上野地震(嘉永7年 1854年)」「安政江戸地震(安政2年 1855年)」「安政江戸沖地震(安政3年 1856年)」「飛越地震(安政5年 1858年)」など、大きな地震が頻発した記録が残っています。

明治17年に「祝祭が開催された」という棟札です。ここでは社名が「諏訪大明神」ではなく「諏訪神社」と書かれている点が注目されます。

[illegible]

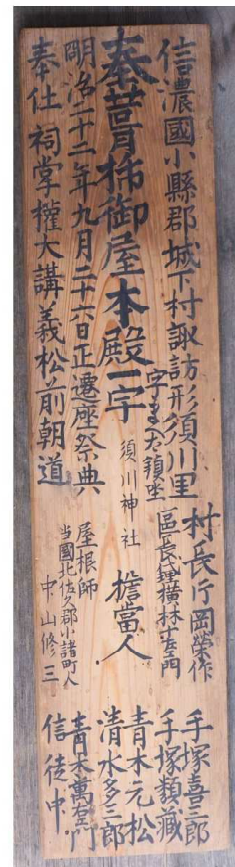
7 明治22年（1889年）の棟札

諏訪形の諏訪神社本殿から見つかった棟札ですが、諏訪神社のものではなく、「信濃國小縣郡城下村諏訪形須川里」の「字まへた（前田）」にあった神社の棟札です。横林、手塚、青木など須川地籍に多くある姓が見えます。

須川にあった諏訪神社が諏訪形に移された話は『諏訪形誌』でも触れていますが、そのことと関連があるものなのだろうと考えることもできます。

なお、明治22年は「大日本帝国憲法」が公布された年です。また、東海道本線（新橋－神戸間）の開通やパリ万博が開かれたのもこの年です。

信濃國小縣郡城下村諏訪形須川里
字まへた鎮座
村長 片岡榮作
區長代理 横林十左工門
奉 ●●御屋本殿一字 須川神社
檐當人 手塚喜三郎
手塚類蔵
清水元松
清水多三郎
青木萬右工門
信徒中
明治二十二年九月二十六日正遷座祭典
奉仕祠掌権大講義松前朝道
屋根師 当國北佐久郡小諸町人
中山修三



8 明治30年（1897年）の棟札

明治30年に「諏訪神社の屋根を葺き替えた」という棟札です。

10月14日に作業を始めて20日には終了し、22日に遷宮を行った、とたいへん具体的に記載されています。

信濃國小縣郡城下村字諏訪形鎮座
諏訪神社御本殿屋根葺成就
社掌 上條司



明治三十年十月十三日 假遷宮
同年 十月 十四日 事始
同年 十月 二十日 事修
同年 十月 二十二日 正遷宮
區長 小林 林治
代理 柳澤万八
當國西細代
小林常次
小林弘八
柳沢万八
東細代
細川銀石工門
柳沢重太郎
中組氏子細代
窪田五藏
窪田光江
窪田幸石工門



【コラム この間（明治30年と昭和11年の間）の出来事と棟札】

『諏訪形誌』の記載にもあるとおり、この間の昭和3（1928）年に、諏訪神社は当時の内務省に対して「社格昇進願」を出しています。これは、戦前まで存在した神社の公的ランキングである「社格」について、現在の「村社」から「郷社」に昇格させてほしい、という要望です。

この「願」の文書の中に諏訪神社の来歴が記されており、その中に「嘉禎3年に社殿を建て替え、諏訪神社上社から注連（しめ縄）を授かった」「文明6年に社殿を建て替えた」という記述があります。この記載の元となったものが本稿1で述べている2枚の棟札であると思われます。ただし、これらは前にも述べたとおり、享保9年の社殿改築に際して棟札が書かれたときにいっしょに作られたものである可能性が高いものと考えられます。

なお、結果的にはこの願いは却下されてしまいました。

9 昭和11年（1936年）の棟札

昭和11年は「2・26事件」の起きた年です。

諏訪神社ではこの年の9月10日に仮遷宮をおこなって本殿の屋根を葺き替え、9月16日には完成して正遷宮を行ったことがわかります。

假遷宮祭 昭和十一年九月十日執行
奉諏訪神社御本殿御屋根葺替
正遷宮祭 昭和十一年九月十六日執行



奉仕社掌關守人
區長 手塚國吉
代理 中村求馬
氏子總代 細川蔵三
全 柳澤敬二
全 飯田徹
全 手塚勝
祭典係
柳澤清一
窪田正雄
宮下源次
清水喜一郎
手塚光治



10 昭和37年（1962年）の棟札

もっとも新しい棟札は昭和36年のものです。この年、本殿屋根の改修を行っています。

神社総代や（神社）委員の中に懐かしい名前も見られます。

假遷宮祭 昭和三十七年三月二十六日執行
奉諏訪神社御本殿御屋根改修
正遷宮祭 昭和三十七年四月十四日執行



奉仕社掌横関眞静
神社總代 細川三郎
柳澤末吉
柳澤敬二
手塚今朝雄
委員 北澤道之助
浅野重徳
柳澤一光
宮下末男
小林蔵雄
久保田良平
宮下今朝雄
窪田三郎
窪田幸良
柳澤清一
増澤兵衛
宮下三喜平
岡角玉静
清水茂雄

